我孫子市は男女共同参画社会をめざします

男女共同参画情報紙『かがやく』

私のターニングポイント Vol.3

◆特集「育休 取りまーす」と言って 後藤有太さん…P2・3

◆あびこで子育て サービスの紹介…P4

当紙では20号で「イクメン」を特集したが、今回改めて男性の育児をとりあげる。

今年3月でちょうど9ヵ月にわたる育児休暇を取得し終えた後藤有太さん（市内在住、29才）を取材した。

◆合理的で、クールな選択というものがあるとすれば、後藤と妻の住居選択がそれであったろう。二人は2008年に結婚、その前年、我孫子に住むことを選んだが、その理由は、我孫子が後藤の勤務先東京と妻の当時の勤務先筑波との中間点だったこと、ただその一点。我孫子は後藤の実家川崎とも妻の実家埼玉とも何のゆかりもない。結果としてこの選択は、子育て環境の充実、豊かな自然環境などで後藤にとって単なる合理性以上の満足をもたらすことになる。

◆2010年7月、第一子涼介誕生。そもそも後藤はどのような思い、またはどのようなきっかけで育児休暇を取ったのか？または取れたのか？後藤の答はあまりにもまっすぐで、そのためにかえって我々の質問がいかに現状（日本の男性の育児環境）に絡め取られてしまっているかに気づかされることとなった。

「取りまーす」と言って

◆「きっかけといっても特になくまあ、あえていえば当然子どもが生まれたから…ですし、何でしょうね、ほんと、自分の子どもが生まれたので、それは自分が育てようかなと。」

当然ということである。ここには男が育児休暇を取ることの特別視は皆無である。

◆「まあ、男性が育児休暇を取ったことがものすごくクローズアップされるのですけど、そもそも妻の方が先に1年取っているんですね、1歳までは。法律であれば1歳で育児休暇終了だと思うんですけど、うちの会社はそこがちょっとよくて、1歳になった年の年度末まで取れるんですよ。極端な話、私が1年9ヵ月取ってもよかったんですけど。（実際は後藤が妻とバトンタッチする形で2011年7月から2012年3月末まで9ヵ月育児休暇を取ったことになる。夫婦合計して1年9ヵ月）まあそういう意味では私より妻の方が長く育児休暇を取っているんです。ですから、育児休暇を私が取るきっかけといっても特に…もともと子どもは自分も育てようと思っていましたし、妻の方も働いていましたし、今後も働きますし、そういう意味ではそれぞれ働き、それぞれ育てる、というのがいいのかなと。」

実に気負いがないというべきか。もっとも後藤のようなケースが極めて稀なのも、環境、特に日本の制度、労働慣行等の障壁によるものではなかったか。後藤はそこをどうクリアしたのだろう。

◆「会社で長期の育児休暇を男で申請したのは私が初めてでした。私の申請後、1人だけ2週間取った人がいます。申請するときは、ゆっくり相談するというよりも正面突破じゃないですけど、取りまーす、と言ってしまったので、まあ職場では当然反対はないんですけど、戸惑いはずい分あったみたいです。あれ？あ、そういえば取れるんだね、というような反応でした。」

そう、取ってしまえばなんとかなる。もっともそれは後藤の会社が人員に余裕があったからということもある。さて後藤の育児体験はどうだったか。

要は気持ちの問題

◆「大変は大変でしたね。妻からバトンタッチした最初は当然母乳はない、やれお湯沸かして、哺乳瓶消毒して、溶かしてと、そんなこととしている間にわんわん泣いちゃいますし。風呂とかオムツとかはその前からやっていましたので、なんとかできたんですけどね。」

後藤は育児休暇中の家事全般は、朝食以外はすべてこなす。以前から家事の役割分担はできていたようだ。

◆「家事って難しいものじゃないじゃないですか。料理はもともとバイトで居酒屋の調理場もやっていたし、一人暮らしもしていたので苦にならない。レストランで出すわけではないので食べられるようにするのって、そんなに難しくはない。」

初めて子どもと一対一で向き合う困難は男女を問わずあったはずだが後藤の場合も。

◆「一日中家にいると人と話さない。公園に行っても、まあ挨拶ぐらいはしますけど仕事に比べれば全然話さない。子どもにはまあ話しかけはしますけど、会話じゃないですからね。だから人との会話にちょっと飢えていた部分はありますね。」

◆「子どもが生まれる前は育児ノイローゼのニュースなど当然ピンとこないし、児童虐待とかも全然別の世界のことだと思っていたんですけど、自分で育児をしてみて、ああこれでこの勢いでやっちゃうと多分そうなる。自分がやっちゃうかどうかはともかく、全然別世界の話じゃないな、というのが実感です。子どもと二人っきりだとやっぱり煮詰まってしまう、それを変えるきっかけがないですからね。職場で一対一に煮詰まっても他の仕事もあるので、そこで変えられる。他人（ひと）と話せればいいんですけどね。大人と、日本語をしゃべる人と（笑）」

◆「公園、近所のスーパーとか家にいて結構行動がワンパターンになっちゃうということがあって、たまに電車に乗ると新鮮だったりして、でもそれがいけないのかっていうと、そうでもないとは思うんですけどね。要は単に変化だと思うんです。毎日東京まで電車に乗って通ってたのが、我孫子市内の生活になったという。」

子どもはまっすぐ成長するわけではなく波がある。それも発見である。

◆「例えば歯磨き、素直にやってたのに急にダメになるとか、食べ物にしてもバクバク食べていたものが、ある日嫌いになったりとか。最初はいちいちびっくりしていたんですが、まあ、でもそういう時期もあるんだなあと…最初のイメージはどんどん一直線にいろんなことがひたすらできるようになっていくと思っていたんですけどね。ただ子どもの変化は大きい。意志もはっきりしてきて、今までペットみたいだったのが人間関係になってくる。面白い時期ではありました。」

パパとあそぼう（にこにこ広場）

子育ては後藤を変えたか？また、子育てそのものを楽しめたか？

自分を成長させたい時間

◆「どうでしょうか、4月に職場復帰したら以前の自分とどう違うか判ると思うんですけど、多少は我慢強くなっているかもしれないですね。この9ヵ月は充実したすごくいい時間だったのは間違いない。自分を成長させたことは間違いない。ただ、楽しいか、楽しくないかと言われると色々ある。仕事は楽しいかと聞かれてスパッと答えられないように、子育ても辛いこともあれば楽しいこともある。」

現在、後藤は入社7年、そこで育児休暇を取ったことで、キャリアとしての不安はなかったのだろうか。

◆「たしかにうちの会社は相当恵まれている。取ったからといってあからさまに、キャリアに響くということは男性、女性ともないと思うんですけど、その間仕事をしていないのですから、差別とかではなく単純に遅れはあるだろうなとは思います。」

後藤は4月から職場復帰する。その際、待機児童ゼロの我孫子の子育て環境の充実に改めて気づく。

◆「4月からは新しい部署へ異動するので、保育所の送り迎えは、私が異動先に慣れるまで妻がすることに。残業がなければ私が迎えに行ける。」

「この先子どもは、できれば2人、3人欲しいと思っていますが、そこはまた、妻と相談です。仕事もさらに忙しくなっていると思いますし。」

さて今後、あとに続く男性のために後藤からのアドバイスとして。

「あとはほんとに最初のうちだけですけど公園へ行っても、子育て施設へ行っても、どこへ行ってもお母さんと子どもという集団で、そこへ行くのはちょっと気まずかった。慣れてしまえばなんとかなるんですが、要はこっちの気持ちの問題だけなんでしょうけどね。」

◆「プラスもマイナスも確かめた上で、男性が育児休暇を取ることを、まず家庭内でしっかり意思統一することではないでしょうか。あとは職場によって違うと思いますが、決めたら気にせず取ってしまうしかないのかなと。どんな職場でも、どんな人でもいなくなったらダメージがあると思うのですが、逆にいえばどんな人でもいなくなって会社が傾くかというと、そんな人はそうそういない。理解ある職場でも、やはり戦力として一人でも欠けるのは困る。（困らないと言われても、それもさびしいですが）迷惑かけるのは承知で、もう決めたら取ってしまうしかないのかなと。しれっと取ってがんばれば貴重な経験が、得がたい父親の経験ができますし。」

◆「あと、子育ては病院での出だしの経験の差、奥さんの方がよくできる状態で、その流れでどうしても奥さんが育児の主体になり、旦那さんがやる気を見せても、上手くできる方がやればいいという流れになってしまう。そこをひっくり返すのが最初は難しいところです。奥さんの方もハラハラしても任せる。お互い最初は我慢が必要だと思いますね。」

（取材・平成24年3月28日）

あびこで子育て

「今や若い世代の意識は変わってきている。」と NPO 法人ファザーリング・ジャパンの安藤哲也氏は言います。日本能率協会の今年の調査でも夫婦で共働きの場合の育児休業について、「ぜひ取りたい」と答えた男性が33.9%に達しました。しかし、実際に 2011 年度育児休業を取得した男性は、2.6%（前年度比 1.3 ポイント増）です。

2010 年 6 月 30 日改正育児・介護休業法から 2 年、若いパパたちを取り巻く育児環境は変わりつつあります。3歳未満の子どもを育てる労働者の短時間勤務制度の導入については、2012 年7月1日から、これまで適用が猶予されていた従業員 100 人以下の企業についても義務づけられました。

我孫子市では子育てに喜びや楽しみを感じ、地域で安心して子どもを生み育てることができる「子育てしやすいまち」を目指し子育て支援サービスの充実をはかっています。

「ｅｎｊｏｙパパ応援プロジェクト」に参加しよう！

子育てを楽しみながら、家庭や地域で輝くパパの後押しをしています。情報誌『あびこでパパを楽しもう！Vol.1 初夏号』を発行して、子育て中のパパたちのネットワークづくりを呼びかけています。

５つの子育て支援施設はどこにあるの？

にこにこ広場	すくすく広場	わくわく広場	すこやか広場	ほかほかランド
我孫子南	天王台	湖北台	布佐平和台	湖北台
☎7185-8882	☎7185-1936	☎7185-2196	☎7185-2247	☎7187-5571

ある日の支援施設　※乳幼児を子育て中の親子が交流できる場で、子育て相談、イベント、講習会、情報提供をしています。

『チーパス』って知ってる？

子育て家庭優待カード『チーパス』
※市町村を通じて配布します。

子育て家庭優待カード『チーパス』は、平成２４年7月から千葉県が社会全体で子育て家庭（中学校終了まで）を応援するために実施している経済的支援のひとつです。このカードを提示すると企業の各種割引等のサービス提供を受けられます。我孫子でも５０以上の事業者が協賛しています。

『チーパス』は、市役所保育課、各行政サービスセンター、５つの子育て支援施設でお子さんの保険証または母子手帳を提示して受け取ることができます。

＊くわしくは我孫子市ホームページをご覧ください。
「あびこで子育て」でもOK！
http://www.city.abiko.chiba.jp/index.cfm/18,0,208,1013,html

編集後記

▷特集に登場した後藤有太さんに、職場復帰後の様子を伺いました。「まったく新しい部署に移って、仕事に慣れるのに精いっぱいの日々ですが、定時に終了するので保育園へ迎えに行ってます。子育てを経験したからなのかどうか、新しいことを気軽に始められるようになった気がします。気持ちにやや余裕ができたのかな。」

▷「かがやく」について、感想や取り上げてほしい話題などをお寄せください。（編集委員）

■発行：我孫子市　■発行日：平成 24 年 8 月　通巻 23 号
■編集：「かがやく」編集委員会　我孫子市市民生活部市民活動支援課男女共同参画室
〒270-1192 我孫子市我孫子 1858 番地　TEL：04-7185-1752
地球環境保護のため再生紙を使用しています